

1面のつづき

都立高校入試で使われるスピーキングテストは、新型コロナの感染拡大防止の観点からも大きな問題があります。

同テストでは、全員がいつせいに大声を出します。プレテストでは感染対策としてマスクをし、クラスの半数ずつ行うことでしていませんが、テストの15分間、窓は閉め切れます。

文部科学省が出していいる衛生管理マニュアルは、「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」として「近距離で一斉に大きな声で話す活動」をあげ、感染レベル3（ステージ3と4の地域）では、こういふよう求めています。

東京都では1月以降、3つと3項目超の指標がステージ3超です。対策をしても中止が求められるテストを、リスクの高い密閉空間で強行しようと

都立高入試に導入 ベネッセの スピーキングテスト

シングを行ったり、その教材を学校や塾に販売したりしています。

「ベネッセがテストをするなら、対策はベネッセがいいだろ」と普通に思います。一企業をもう

けさせるテストを入試に使うのは不公平です。大学では中止になった不公平な入試を都が行うのはおかしい。やめるべきであります。東京都目黒区の中学生の保護者(43)は、

教員はいいます。「事前の準備も中学校に丸投げされ、膨大な事務作業に神経をそり減らします。それだけの労力や時間、お金かけた意味はまったく見えない。働き方改革にも逆行します」

こう話します。

学校情報の登録や生徒の登録の確認も中学校の教員が行います。先述の

そもそも、テストを行えばスピーキング力がつく、という考えが間違っています。無理やりテストの枠にあてはめる対策

テストで英会話の力つかない



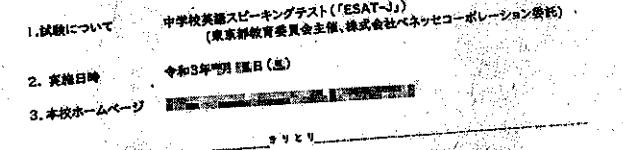
東京大学教授(英米文学)
阿部公彦さん

経済的に大変な方も受ける公立高校の入学試験で、受験産業が仕切り、

対策も受験産業が担うのは、公平ではありません。問題形式を知っている人と知らない人で差があり、対策の有無や貧富つき、対策の格差が入試に影響しま

ります。「相手の意図をくみとり、わかるように話す」という本来の会話の魅力にはつながらず、逆に話すことに心理的なプレッシャーを感じたり、英語が嫌いになってしまったことでのための条件をつけることで、答えの幅が狭くな

ります。「本来、何を話しても自由なはずなのに「沈黙や間違いは減点」など採点のための条件をつけてしまふ。それが心配です。



中学校英語スピーキングテスト(「ESAT-J」)
(東京都教育委員会主催、株式会社ベネッセコーポレーション実施)
1. 試験について
2. 実施日時
令和3年4月1日(土)
3. 本校ホームページ
www.benesse-school.com

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)保護者同意書
「成績提供同意」、「受験者向けサイト利用規約」、「個人情報を取り扱いについて」

同意します

年 齢 生徒氏名()
保護者名()

都内のある学校で中学3年生の保護者が提出する同意書。ベネッセへの個人情報の提供について、保護者はよくわからぬまま同意を迫られます

採点の基準で「母語の影響を受けていること」が減点対象となっているのもおかしなことです。「ネーティブ並みの発音」などが求められているのかもしれません。どの国の英語も母語の影響があり、中立の英語など存在しません。おかげば、差をつけられないのがスピーキングテストの難しさです。こんなテストは撤回すべきです。

ベネッセは、通信教材の有料オプションとして、オンラインスピーキ

あなたは、昨日あなたに起こった出来事を留学生の友だちに話すことになりましたで、相手に伝わるように英語で話してください。
(準備時間30秒/解答時間40秒)